

2025年3月期 決算概要

2025年5月14日

テルモ株式会社
Chief Financial Officer
萩本 仁



CFOの萩本でございます。
まずは私より2025年3月期 期末決算の概要をご説明いたします。

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況等があります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

セグメント名の変更

■ 心臓血管カンパニー 一部事業の名称変更

変更前	変更後	ビジネスブランド
TIS事業	インターベンショナルシステムズ事業	Terumo Interventional Systems
ニューロバスキュラー事業	ニューロ事業	Terumo Neuro
血管事業	アオルティック事業	Terumo Aortic

■ 血液・細胞テクノロジーカンパニー 開示セグメント変更

変更前	変更後
血液センター	グローバルブラッドソリューション (GBS)
アフレスシス治療他	グローバルセラピーイノベーション (GTI)
細胞処理	

プレスリリースでお知らせしました通り、今年4月から一部の事業名称および開示セグメントを変更しております。
本日のご説明では、変更後の名称・セグメントを使用しておりますので
ご注意ください。

■ ハイライト

■ FY24実績

- 売上収益として初の1兆円突破、北米が牽引し全社で+12%の伸長
- 営業利益は、242億円の一時費用を計上するも、過去最高益を達成
- 当期利益、フリー・キャッシュ・フローにおいても過去最高

■ FY25業績予想

- グローバルで成長継続、売上収益は+7%伸長（為替影響除く）
- 事業拡大と一時費用の剥落により、営業利益は+32%伸長（為替影響除く）

それでは、本決算のハイライトです。

24年度は、売上収益として初の1兆円を突破いたしました。
売上収益はグローバル、特に北米での需要の拡大が継続したことに加え、為替の円安傾向もあり、前年比較で12%の成長となりました。
営業利益は、242億円の一時費用を計上しましたが、それを上回る成長により4年連続の過去最高益を達成しました。
当期利益、フリー・キャッシュ・フローにおいても、それぞれ過去最高となっています。

25年度の業績予想については、グローバルで成長が継続し、売上収益は現地通貨ベースで+7%の伸長を見込みます。
営業利益は、事業の拡大と前年度の一時費用の剥落により、現地通貨ベースで+32%の増益の見通しです。

次のスライドをお願いします。

P&L, FCF実績

- 売上収益：グローバルで需要が拡大。TISとグローバルブラッドソリューションが牽引
- 営業利益：一時費用を計上するも、売上増、価格政策、収益改善策の順調な進捗により増益

金額（億円）	FY23 Q4累計	FY24 Q4累計	増減率	為替除く増減率	FY23 Q4	FY24 Q4	増減率
売上収益	9,219	10,362	12%	9%	2,389	2,639	10%
売上総利益 (%)	4,792 (52.0%)	5,607 (54.1%)	17%	12%	1,243 (52.0%)	1,385 (52.5%)	11%
一般管理費 (%)	2,759 (29.9%)	3,074 (29.7%)	11%	8%	737 (30.9%)	818 (31.0%)	11%
研究開発費 (%)	691 (7.5%)	742 (7.2%)	7%	4%	199 (8.3%)	188 (7.1%)	-6%
その他収益費用	59	-214	-	-	39	-138	-
営業利益 (%)	1,401 (15.2%)	1,577 (15.2%)	13%	3%	346 (14.5%)	242 (9.2%)	-30%
調整後営業利益 (%)	1,568 (17.0%)	2,034 (19.6%)	30%	20%	371 (15.5%)	441 (16.7%)	19%
税引前利益 (%)	1,408 (15.3%)	1,546 (14.9%)	10%		351 (14.7%)	227 (8.6%)	-35%
当期利益 (%)	1,064 (11.5%)	1,170 (11.3%)	10%		265 (11.1%)	179 (6.8%)	-32%
フリー・キャッシュ・フロー	649	1,283	98%				
期中平均レート(USD/EUR)	145円/157円	153円/164円			149円/161円	153円/161円	

©TERUMO CORPORATION

5



PL実績です。

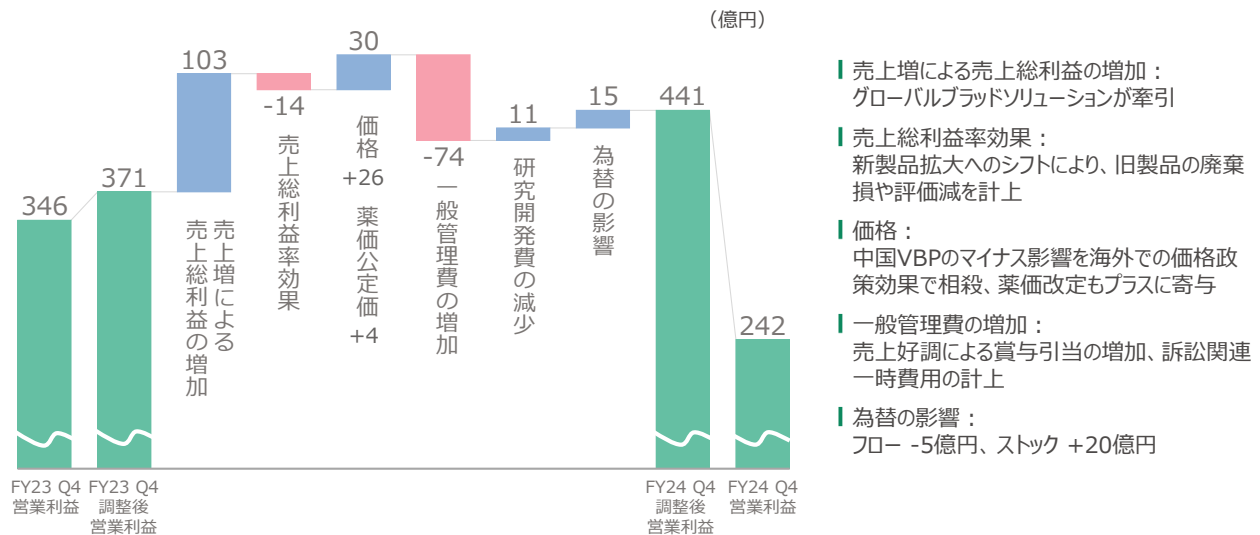
冒頭でも申し上げました通り、売上収益は、総じて良好な事業環境での需要拡大により、通期で1兆362億円と過去最高となりました。

営業利益・調整後営業利益も、価格政策、製造コストの改善、経費のコントロールなどを通じて、それぞれ過去最高の1,577億円、2,034億円となりました。特に調整後営業利益は、利益額の拡大に加え、対売上比率も2.6ポイントの大幅改善となりました。

フリー・キャッシュ・フローに関しても、営業キャッシュフローの拡大により、昨年度から大幅な増加となっており、初めて1,000億円を超える規模のキャッシュの創出を実現できました。

次のスライドをお願いします。

営業利益増減分析 (Q4) : 需要拡大の継続による売上増加が貢献



©TERUMO CORPORATION

6

TERUMO

第4四半期における、前年同期比の利益増減のハイライトです。

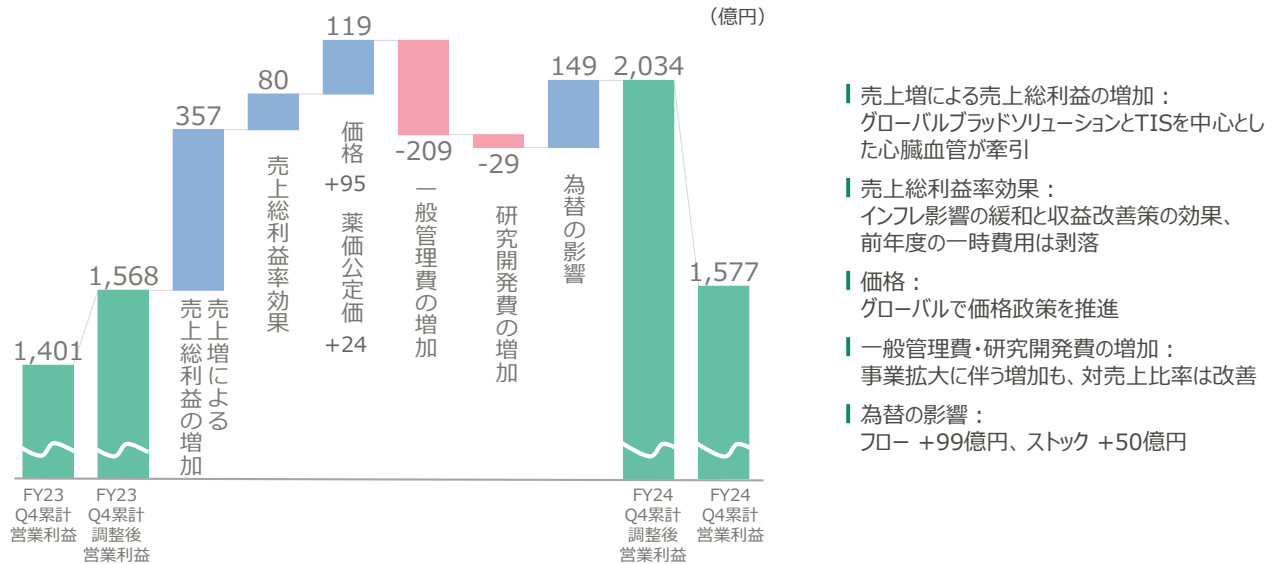
まず「売上増による売上総利益の増加」は、ブラッドソリューションが牽引しました。

「売上総利益率効果」がマイナスとなっているのは、新製品拡大に向けて旧製品の廃棄損および評価減を計上したことによるものです。

「一般管理費の増加」は、売上が計画を上回ったことで追加計上となった賞与引当や、訴訟一時費用により増加しました。

次のスライドをお願いします。

営業利益増減分析 (Q4累計)：好調な売上と価格政策が貢献



©TERUMO CORPORATION

7

TERUMO

続きまして通期の利益増減分析です。

全体としては、需要拡大の継続による売上の増加が大きく貢献しています。ブラッドソリューションに加えてTISを中心とした心臓血管カンパニーが牽引しました。

「売上総利益率効果」は、収益改善策の効果とインフレ緩和に加えて、昨年度の供給問題解消によるミックス改善や一時費用剥落もあり、大幅増加となりました。

「価格」では、中国VBPによる価格下落を国内外での値上げ効果で相殺しました。また薬価改定もプラスに効いています。

「一般管理費の増加」は、通期での対売上比率を改善することができました。

「為替の影響」の内訳は、フロー、ストックともに増益に寄与しております。

次のスライドをお願いします。

営業利益の調整項目内訳（Q4累計）

	(億円)	地域/事業	内容	
減損損失 159	Q4 62	北米 TIS	大口径止血デバイス開発プロジェクト中止に係る資産の減損	ポートフォリオ最適化 COF** 無
	Q4 53	欧州 TIS	放射線放出ビーズ販売終息に係る資産の減損	
	Q3 25	欧州 TBCT	製薬会社との新規受託製造プロジェクトの中止に伴う製造設備の減損	
	Q4 19	中国 TIS	生産拠点の収益性悪化に係る減損	
事業再編 61	Q2 45	欧州 TIS	生産拠点の最適化に伴う事業再編費用※減損15億含む	将来投資 COF** 有
	Q3 16	グローバル TCV	事業ポートフォリオ見直しに伴う事業再編費用	
その他 23				
調整項目合計*	242			

*営業利益の調整項目のうち、買収無形資産の償却費を含まず **COF：キャッシュ・アウト・フロー

©TERUMO CORPORATION

8

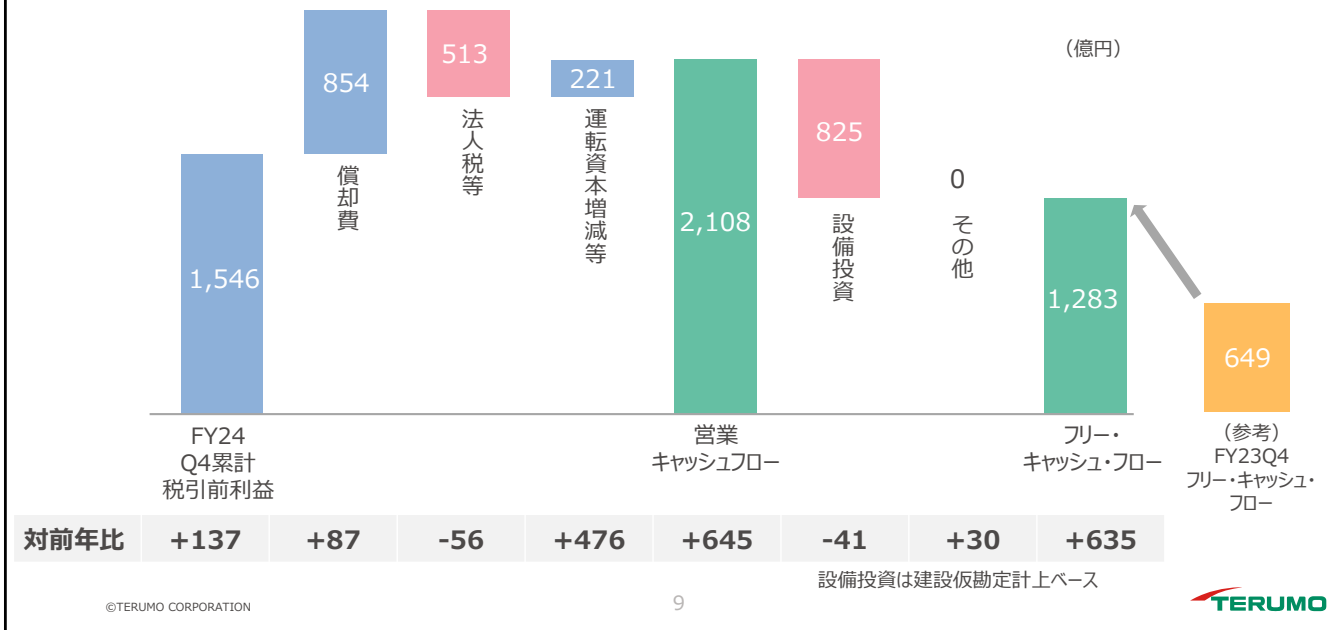
TERUMO

24年度通期で計上しました一時費用242億円の内訳です。今年度はGS26の最終年度を見据えて、今できることはやるという決意のもと、積極的な事業レビューを行いました。具体的には、ポートフォリオ最適化、将来への投資と位置付ける事業再編です。第4四半期に計上されたTISの減損費用について、大口径止血デバイスの開発プロジェクトの中止と放射線放出ビーズの販売終息は、収益性また他プロジェクトとのバランスも踏まえ戦略的に判断いたしました。中国生産拠点については、今後も事業を継続し立て直しを図ってまいります。

また欧州TISの事業再編は、TIS事業のさらなる収益性向上を目的としてリソースの再配分を行ったものです。採算性に鑑みた生産品目の最適化に伴い、一部工場を閉鎖しました。同時に、今後より注力する事業領域でリソースの再活用をすべく準備を進めています。リソースの具体的な再活用方針については、適切なタイミングでまたご報告させていただきます。

一時費用としては242億円となりましたが、キャッシュフローの観点からはキャッシュの減少は事業再編でのみ発生しております。次のスライドをお願いします。

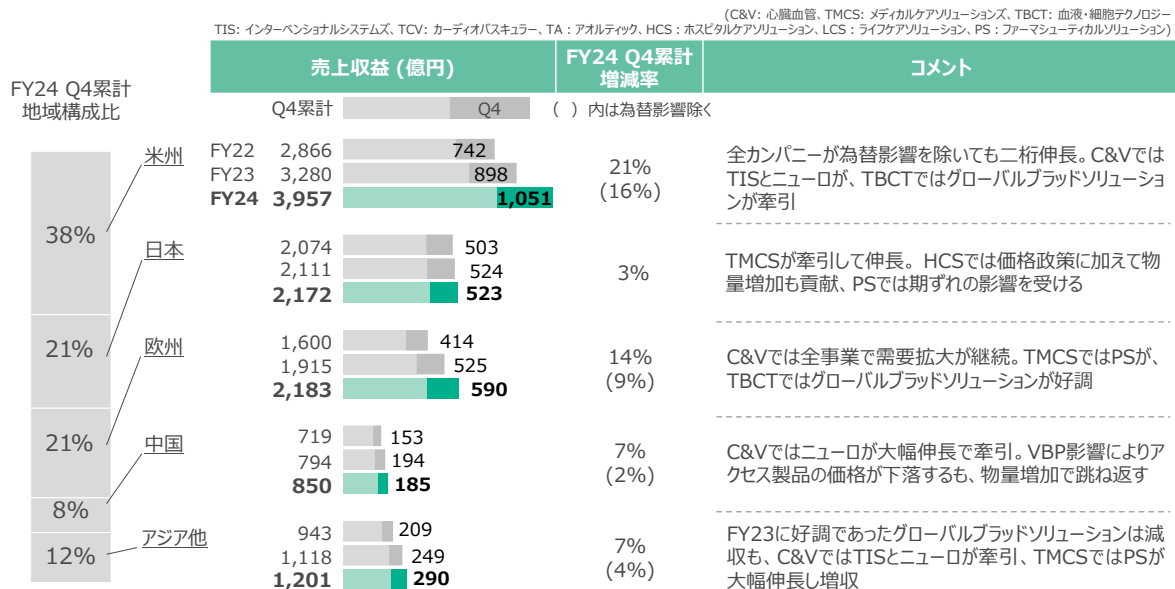
フリー・キャッシュ・フロー実績：1,283億円（前年比 +635）



フリー・キャッシュ・フロー実績です。
前年同期比で635億円の増加となり、過去最高を更新しました。
事業規模拡大による利益の増加がフリー・キャッシュ・フローの大幅改善に寄与しました。

次のスライドをお願いします。

地域別売上収益：米州・欧州が牽引し、グローバルで順調に進捗



©TERUMO CORPORATION

10

TERUMO

地域別売上収益です。

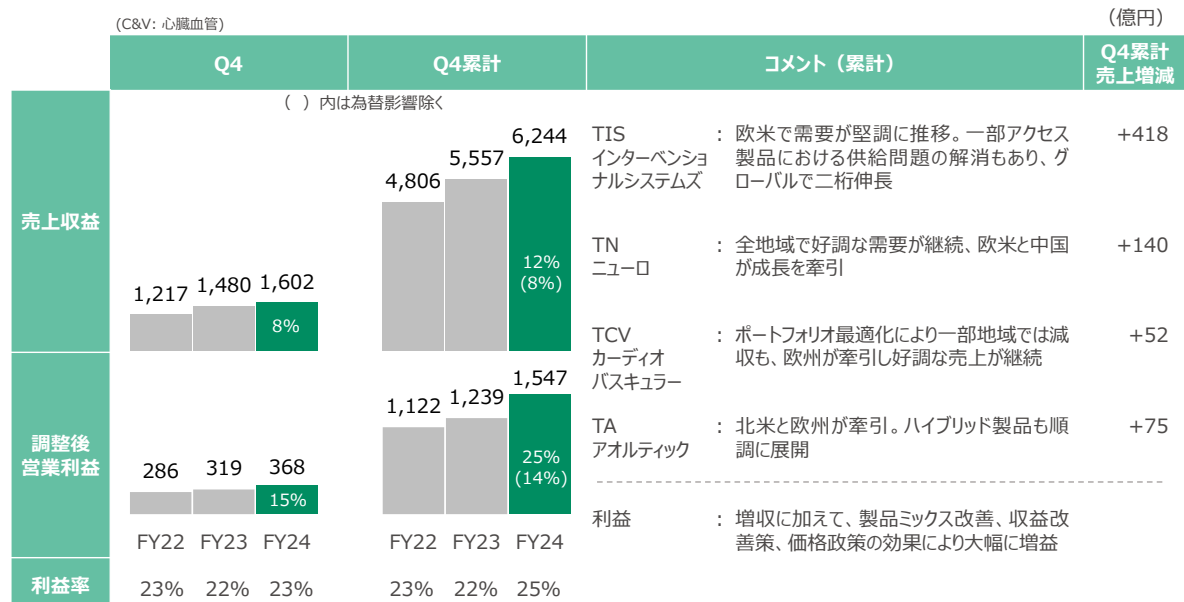
米州・欧州を中心に、全地域で順調に進捗しました。

米州では、全カンパニーが現地通貨ベースでも二桁伸長となり、全地域の中で最大の伸び率となりました。

また中国では、TISでVBPによる価格下落を物量増加で跳ね返したことに加え、ニューロが需要拡大により大幅伸長しました。

次のスライドをお願いします。

C&V：北米が牽引しグローバルで売上・利益ともに大幅伸長



©TERUMO CORPORATION

11



カンパニー別に業績をご説明します。まず、心臓血管カンパニーです。

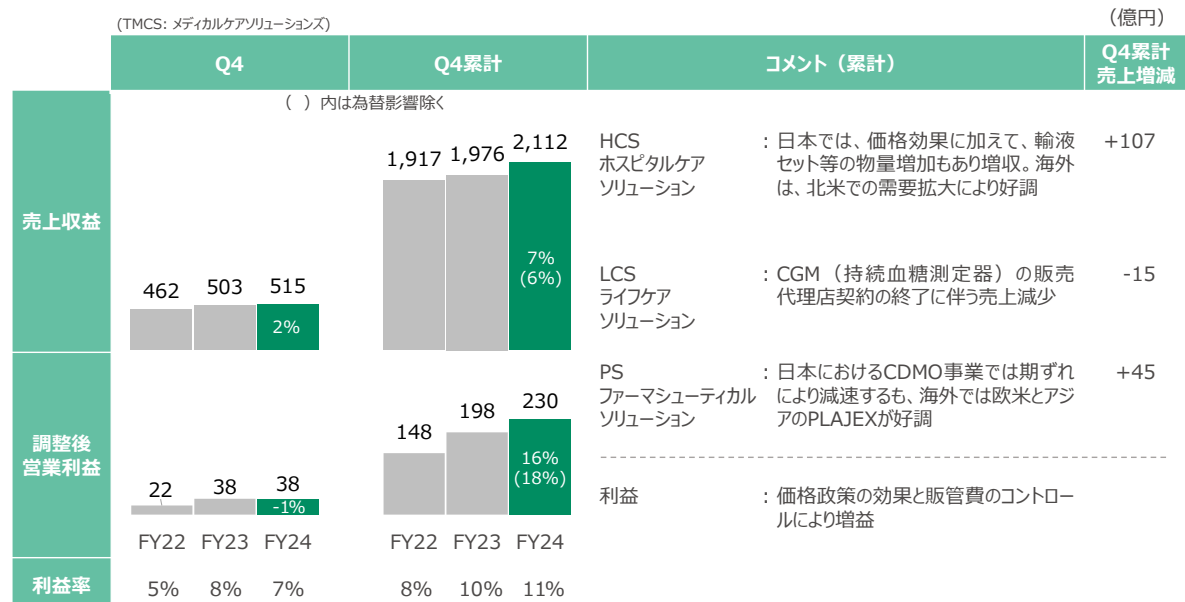
売上収益は、現地通貨ベースで+8%伸長と、北米を中心にグローバルで好調でした。

事業別伸長率では、ニューロとアオルティックが牽引しました。

利益も、増収と各種施策により、大幅に増益となりました。

次のスライドをお願いします。

TMCS：一時的要因含む売上増と価格政策の効果で増収増益



©TERUMO CORPORATION

12



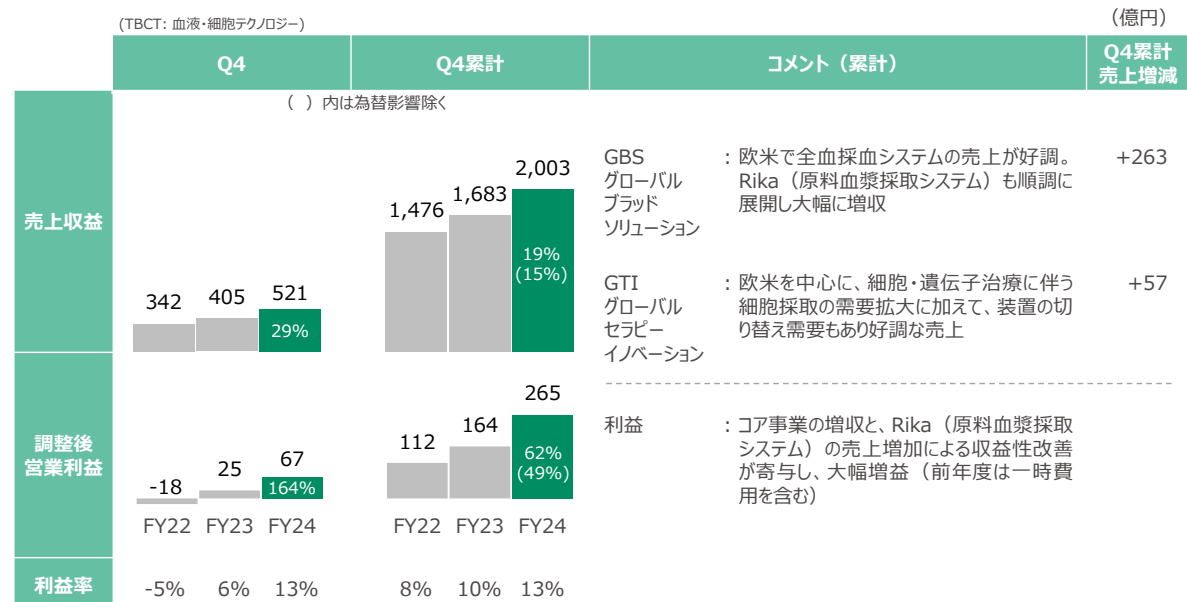
TMCS、メディカルケアソリューションズです。

売上収益は、ホスピタルケアにおける国内価格政策の効果、またファーマシューティカルでは海外のPLAJEXが好調で牽引しました。

利益は、価格政策の効果に加え、販管費のコントロールにより増益となりました。

次のスライドをお願いします。

TBCT：血漿イノベーションの展開加速も寄与し増収増益



©TERUMO CORPORATION

13



最後に、TBCT、血液・細胞テクノロジーです。

売上収益は、ブラッドソリューションに含まれる血漿イノベーション事業が大きく貢献しました。

本日時点で約9割の血漿採取センターへRikaの導入が完了しています。

利益は、コア事業の増収と、Rikaの収益性改善も寄与し、大幅増益となりました。

次のスライドをお願いします。

FY25業績予想

- 売上収益：血液・細胞テクノロジーを中心に成長を継続し、+7%伸長（為替影響除く）
- 営業利益：高収益品の売上拡大と収益改善策の継続に加えて、一時費用も剥落し+32%（為替影響除く）

金額（億円）	FY24実績	FY25業績予想	増減率	為替除く増減率
売上収益	10,362	10,500	1%	7%
営業利益（営業利益率）	1,577（15.2%）	1,940（18.5%）	24%	32%
調整後営業利益（調整後営業利益率）	2,034（19.6%）	2,140（20.4%）	5%	12%
当期利益	1,170	1,430	22%	
ROIC	7.5%	8.8%		
ROE	8.7%	10.1%		
為替レート(USD/EUR)	153円/164円	140円/160円		

（ ）内は為替影響除く

FY25業績予想 カンパニー別（億円）	売上収益		調整後営業利益		調整後 営業利益率
	金額	増減率	金額	増減率	
C&V	6,180	-1%（6%）	1,570	1%（8%）	25%
TMCS	2,160	2%（4%）	280	22%（20%）	13%
TBCT	2,160	8%（15%）	300	13%（25%）	14%

（C&V：心臓血管、TMCS：メディカルケアソリューションズ、TBCT：血液・細胞テクノロジー）

©TERUMO CORPORATION

14



次に、25年度の業績予想です。

売上収益は、血液・細胞テクノロジーを中心に全社で成長を継続し、現地通貨ベースで+7%の成長を見込みます。

営業利益は、前年度の一時費用の剥落もあり、売上成長を大幅に上回る、+32%の伸長を見込みます。

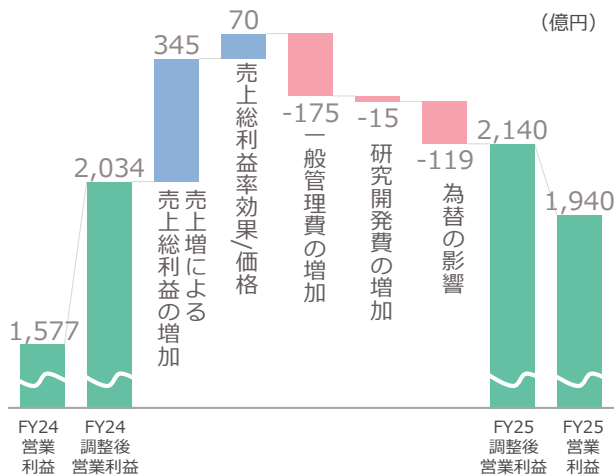
各カンパニーにおいて高収益な成長ドライバーを確実に伸ばしながら、全社的な収益改善策および経費コントロールに引き続き注力することで、営業利益率は18.5%と、3.3ポイントの改善を目指します。

資本効率の改善に向けても引き続き取り組んでまいります。

また今回の業績予想には不確定要素の多い米国相互関税の影響は織り込んでおりませんが、関税のインパクトにおける見通しについては別途ご説明いたします。

次のスライドをお願いします。

FY25 業績予想 利益増減要因



■ 売上増による売上総利益の増加：
血液・細胞テクノロジーを中心に成長を継続

■ 売上総利益率効果・価格：

- ・ 売上総利益率効果：収益改善策の継続も、インフレ悪化等が相殺（前年度の大幅改善は、インフレ緩和と一昨年の一時費用の剥落によるもの）
- ・ 価格：国内外で価格政策の継続、中国VBPの影響を織り込む

■ 一般管理費の増加：
事業拡大に伴う増加

25年度業績予想の利益増減要因です。

「売上増による売上総利益の増加」は、血液・細胞テクノロジーを筆頭に、全カンパニーでの増収を見込んでいます。

前年度の「売上総利益率効果」はインフレ緩和と一昨年のRika減損一時費用の剥落などにより大幅な増加となりましたが、今年度は巡航速度に戻る想定です。収益改善策の継続による効果は、インフレ悪化より一部相殺となる見込みです。また今年度竣工予定の甲府新棟において、減価償却が売上収益の発生に先立ち開始されることも、今年度のミックスには不利に働きます。

「価格」では、国内外の価格政策の継続をします。また中国VBPによる価格下落を織り込んでいます。

「一般管理費」は、事業拡大に伴う健全な増加を想定しています。

次のスライドをお願いします。

関税の影響

■ 関税影響を受ける主な地域

- 北米売上：60%は米州内（コスタリカ、プエルトリコを含む）にて製造、米州外からの輸入は日本が最大
- 中国売上：5%未満が北米からの輸入

■ 関税影響とその前提

- 現在の条件*で関税施行の場合、FY25通期の調整後営業利益ベースで170億円のインパクト
- Q1は既存在庫があり影響は軽微、影響が出るのは主にQ2以降
- 状況が流動的であることから、FY25通期業績予想には織り込まず

*米国輸入：4月～6月 10%、7月以降の日本からの輸出 24%、
対中輸出：5/14時点 10%、90日後 145%

■ 対策

- 価格転嫁により影響を緩和することを想定
- 政策動向がいまだ不透明、今後も動向を注視し迅速に対応

米国の相互関税の影響について、見通しをご説明します。
現段階で発表されている関税のインパクトを単純計算しますと、今年度影響額は最大で170億円程度となっております。

この試算に関しましては、当社のアメリカ向けの売上のうち米州生産以外の輸入の多くが日本からの輸出となっていることと、中国売上のうち北米からの輸入品は5%未満であることを前提として置いています。

現地にすでに在庫を持っているということもあり、経済的な影響は第2四半期以降に出てくると想定しております。

状況が流動的であることから25年度業績予想には織り込んでおりませんが、動向を注視しながら、価格転嫁により影響の最小化を図っていきます。

次のスライドをお願いします。

重点施策に沿った今後の製品・地域展開

● 重点施策

C&V

- 市場規模のあるセグメントで成長、治療領域の拡大
- 疾病横断でラディアル手技の普及

TMCS

- 周術期ソリューションの拡充
- 地域別ニーズに即した海外展開

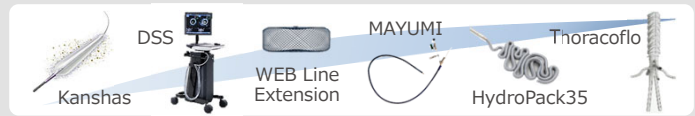
TBCT

- 全血採血による血液自動製剤システムのグローバル展開
- ソフト/サービスによる差別化の実現

● 製品・地域展開

FY25

FY26～



周術期ソリューション

地域展開



血液自動製剤システム

ソフトウェア/サービス



GS26も残すところあと2年間です。ここで25年度、さらにその先を見据えた重点施策と、製品・地域展開戦略についてご説明します。

心臓血管カンパニーでは、引き続き治療事業の拡大およびラディアル手技の普及を目指します。治療デバイスは、さらに戦略的に市場規模のある成長セグメントに注力していきます。

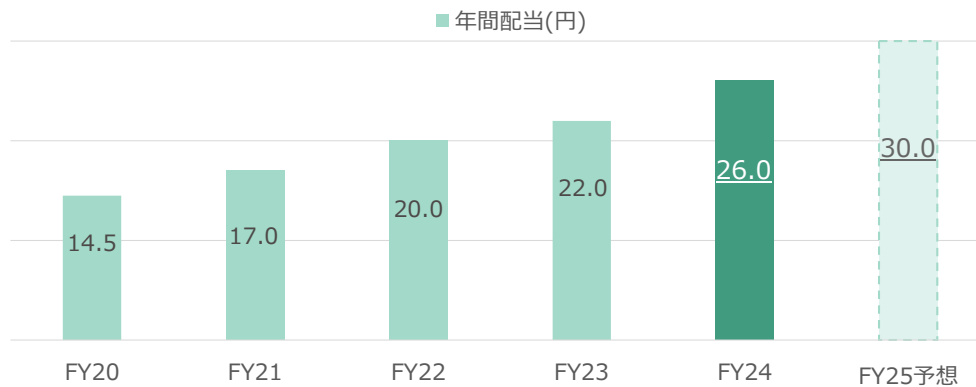
メディカルケアソリューションズでは、デジタルを活用したICタグ読み取り機能搭載のスマートポンプなどで周術期ソリューションを拡充していきます。また、当社の強みと地域別ニーズをマッチングさせることで、海外展開を促進します。

血液・細胞テクノロジーでは、昨年度に全血採取による血液自動製剤システム「Reveos」を米国上市しました。今年度はグローバル展開を加速させていきます。同時に、ソフトウェアやサービス事業の拡充により、競争優位性を確保し差別化を実現します。

次のスライドをお願いします。

配当案：還元方針に基づき増配継続

■ 還元方針：安定増配を継続、総還元性向50%を目標



FY20～FY23の一株当たり配当額は2024年4月1日の発行済み株式数に合わせて補正

配当性向	28%	29%	34%	31%	33%	31%
総還元性向	28%	29%	90%	41%	59%	

©TERUMO CORPORATION

18

TERUMO

最後のスライドです。

配当方針は変更せず、今後も安定増配を実施していくものとします。
24年度の配当は年間26円、配当性向は33%を想定しています。
25年度は4円の増配により年間30円とし、配当性向は31%を見込みます。

引き続き成長への投資を優先していきたいと考えており、買収など資金需要の状況次第ではありますが、総還元性向の50%を目処に検討して参ります。

以上で私からの説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

参考資料

P&L（四半期推移）

（億円）

		FY23 Q4 (1-3月)	FY24 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)
売上収益		2,389	2,582	2,505	2,636	2,639
売上総利益		1,243 (52.0%)	1,376 (53.3%)	1,395 (55.7%)	1,451 (55.1%)	1,385 (52.5%)
一般管理費		737 (30.9%)	748 (29.0%)	732 (29.2%)	777 (29.5%)	818 (31.0%)
研究開発費		199 (8.3%)	174 (6.7%)	194 (7.7%)	187 (7.1%)	188 (7.1%)
その他収益費用		39	-8	-38	-30	-138
営業利益		346 (14.5%)	446 (17.3%)	431 (17.2%)	458 (17.4%)	242 (9.2%)
調整後営業利益		371 (15.5%)	511 (19.8%)	529 (21.1%)	553 (21.0%)	441 (16.7%)
四半期 平均レート	USD	149円	156円	149円	152円	153円
	EUR	161円	168円	164円	163円	161円

販管費（四半期推移）

（億円）

	FY23 Q4 (1-3月)	FY24 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	
人件費	373	398	384	406	430	
販促費	54	52	47	54	60	
物流費	51	51	59	56	57	
償却費	66	70	68	70	71	
その他	192	178	175	190	200	
一般管理費 (売上比率)	737 (30.9%)	748 (29.0%)	732 (29.2%)	777 (29.5%)	818 (31.0%)	
研究開発費 (売上比率)	199 (8.3%)	174 (6.7%)	194 (7.7%)	187 (7.1%)	188 (7.1%)	
合計 (売上比率)	937 (39.2%)	922 (35.7%)	926 (37.0%)	963 (36.6%)	1,006 (38.1%)	
四半期 平均レート	USD	149円	156円	149円	152円	153円
	EUR	161円	168円	164円	163円	161円

販管費（前年同期比）

（億円）

	FY23 Q4累計	FY24 Q4累計	増減	増減率	為替除く 増減率	FY23 Q4	FY24 Q4	増減	増減率
人件費	1,429	1,618	188	13%	9%	373	430	57	15%
販促費	201	213	11	6%	2%	54	60	5	9%
物流費	193	223	30	15%	12%	51	57	6	12%
償却費	250	279	29	12%	7%	66	71	5	8%
その他	685	742	57	8%	5%	192	200	7	4%
一般管理費	2,759	3,074	315	11%	8%	737	818	80	11%
（売上比率）	(29.9%)	(29.7%)				(30.9%)	(31.0%)		
研究開発費	691	742	52	7%	4%	199	188	-11	-6%
（売上比率）	(7.5%)	(7.2%)				(8.3%)	(7.1%)		
合計	3,450	3,816	367	11%	7%	937	1,006	69	7%
（売上比率）	(37.4%)	(36.8%)				(39.2%)	(38.1%)		

調整後営業利益：調整額

(億円)

	FY23 Q4累計	FY24 Q4累計	FY23 Q4	FY24 Q4
調整後営業利益	1,568	2,034	371	441
調整① 買収無形資産の償却費	-200	-215	-54	-54
調整② 一時的な損益	33	-242	29	-146
営業利益	1,401	1,577	346	242

※ 調整項目に含まれる費用・収益の例

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

調整②「一時的な損益」の内訳	FY23 Q4累計	FY24 Q4累計
事業再編費用	-23	-75
オリンパステルモバイオマテリアル株式売却益	13	-
訴訟関連損益	34	-
減損損失	-	-179
TBCT土地売却益	-	14
その他	10	-2

設備投資、償却費、研究開発費

(億円)

	FY21	FY22	FY23	FY24	FY25予想
設備投資	692	758	784	825	950
償却費	532	635	702	781	830
買収無形償却費	161	188	200	210	200
その他	371	447	502	571	630

設備投資は、建設仮勘定計上ベース・リース含まず、償却費はリース償却（IFRS16）含まず

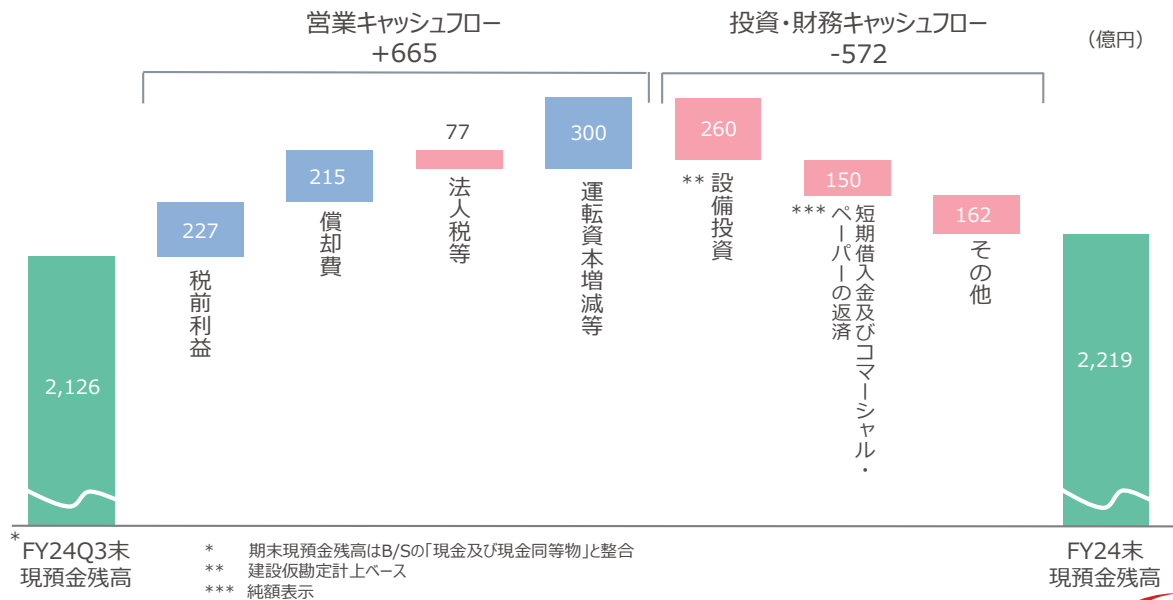
■ FY24設備投資（825億円）

CDMO(開発製造受託)等生産体制強化のため甲府工場内の新棟建設他、TISおよび血液・細胞テクノロジーの増産設備、原料血漿採取関連、R&D投資、基幹システム（SAP）等のIT投資を継続

■ FY25設備投資（950億円） 上記案件を含めた生産能力の増強、新たな成長に向けた投資を予定

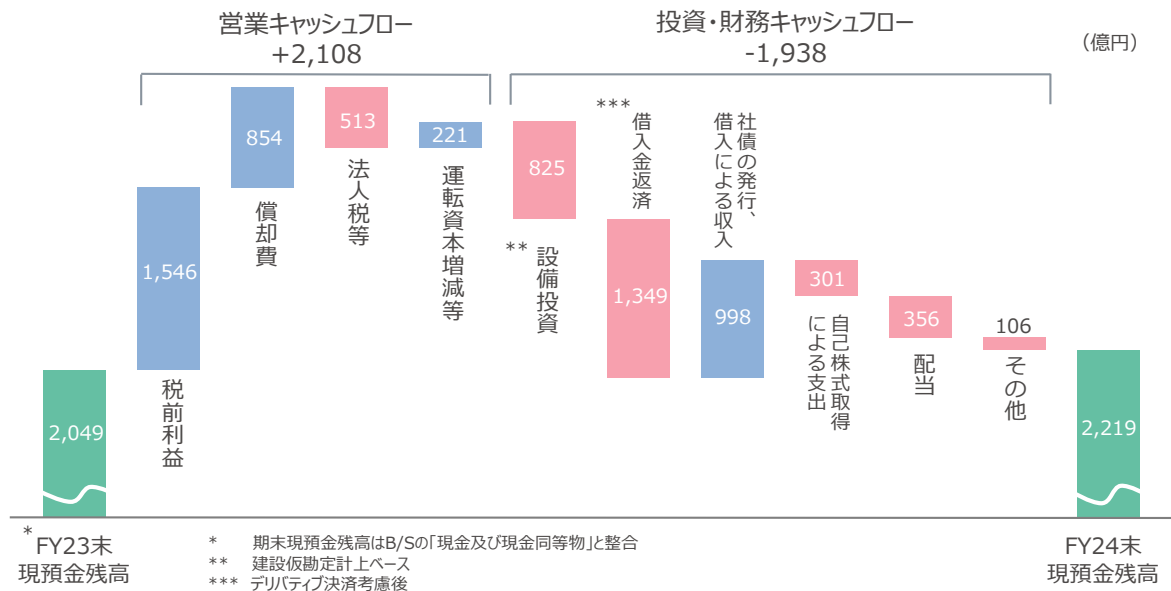
	FY21	FY22	FY23	FY24	FY25予想
研究開発費	518	616	691	742	715

キャッシュフロー（Q4）



©TERUMO CORPORATION

キャッシュフロー（Q4累計）



為替感応度

1円の円安に対しての年間影響額（フロー）

（億円）

	USD	EUR	中国元
売上収益	25	11	39
調整後営業利益	1	5	23

1円の円安に対しての影響額（ストック）

	USD	EUR	中国元
調整後営業利益	-2.5	-0.6	-2.0

